ThreeBond

安全データシート

発行日 2021-8-06 **改訂日** 2024-2-01 **改定番号** 1.2

1:化学品及び会社情報

製品名 ThreeBond 1927E

化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 防錆剤・潤滑剤

使用上の制限 当該用途に使用することの妥当性・安全性について事前確認すること。推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと。本商品は工業用であり、家庭用および医療用インプラントへの使用は禁止する。

安全データシートの供給者の詳細

供給者 スリーボンドファインケミカル株式会社
〒252-0146 神奈川県相模原市緑区大山町1-1

緊急連絡電話番号 042-703-7126 (SDSの内容に関するお問い合わせ)
0120-56-1456 (商品の技術、SDSの請求に関するお問い合わせ)

2:危険有害性の要約

GHS - 分類

急性毒性(経口)	区分に該当しない
急性毒性(経皮)	区分に該当しない
急性毒性(吸入) - ガス	区分に該当しない
急性毒性(吸入) - 蒸気	分類できない
急性毒性(吸入) - 粉塵/ミスト	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
授乳に対する又は授乳を介した影響	授乳に対する又は授乳を介した影響はない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	区分 1
水生環境有害性 短期(急性)	区分 3
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語　危険

危険有害性情報

H315 - 皮膚刺激
H319 - 強い眼刺激
H402 - 水生生物に有害
H304 - 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

安全対策

取扱い後は顔、手、露出した皮膚をよく洗うこと。
環境への放出を避けること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置

特別な処置が必要である(このSDSの4項を見よ)。
水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
無理に吐かせないこと。
皮膚に付着した場合:多量の水と石けん(鹸)で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管

施錠して保管すること。

廃棄

内容物／容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

他の危険有害性

利用可能な情報はない。

3:組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　混合物

化学品の名称	CAS番号	濃度又は濃度範囲(%)	化審法番号	安衛法番号
添加剤	-	20-<30	-	-
石油系炭化水素	-	70-<80	-	-
モリブデン化合物	-	1-<5	-	-

化学物質排出把握管理促進法(PRTR)

該当しない

労働安全衛生法

通知対象物質

安衛法通知対象物質:労働安全衛生法施行令別表第9(労働安全衛生法第57条の2および労働安全衛生規則第34条の2の4関係)

化学品の名称	CAS番号	区分	政令番号
石油系炭化水素	-	通知対象物質	168
モリブデン化合物	-	通知対象物質	604

表示対象物質

安衛法表示対象物質:労働安全衛生法施行令別表第9(労働安全衛生法第57条および労働安全衛生法規則第33条関係)

化学品の名称	CAS番号	区分	政令番号
石油系炭化水素	-	表示対象物質	168
モリブデン化合物	-	表示対象物質	604

毒物及び劇物取締法
該当しない

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)
該当しない

4:応急措置

一般的なアドバイス
直ちに医師の手当てを受ける必要がある。 治療を行う医師にこの安全性データシートを示すこと。

吸入した場合
肺に吸引されると重篤な肺障害を引き起こす可能性がある。 呼吸が停止している場合には、人工呼吸を行うこと。直ちに医師の手当てを受けること。 空気の新鮮な場所に移すこと。 皮膚に直接触れないようにすること。口対口の人工呼吸を行う際はバリアを使用すること。 呼吸が困難な場合には、(資格のある者が)酸素吸入を行うこと。 直ちに医師の診察／手当てを受けること。 遅発性の肺水腫が生じるおそれがある。

皮膚に付着した場合
直ちに石鹸と多量の水で少なくとも15分間洗い落とすこと。 刺激が生じて長引くときは、医師の手当てをうけること。

眼に入った場合
直ちに少なくとも15分間まぶた(瞼)の裏側まで多量の水で洗うこと。 洗っている間は眼を大きく広げてたままにすること。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 刺激が生じて長引くときは、医師の手当てをうけること。 受傷部をこすらないこと。

飲み込んだ場合
吸引性呼吸器有害性 - 肺に侵入して障害を引き起こすおそれがある。 無理に吐かせないこと。自発的に嘔吐した場合には、誤って汚物が気管に入らないように頭を腰より下に下げること。 水で口をすすぎ、その後多量の水を飲むこと。 意識のない者には、何も口から与えてはならない。直ちに医師の診察／手当てを受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
呼吸困難。 咳および/または喘鳴。 めまい。 眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある。 灼熱感。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項
医療者が物質の関与を認識していることを確認し、彼ら自身の保護及び汚染の拡大を防止するための措置を講じること。 皮膚に直接触れないようにすること。口対口の人工呼吸を行う際はバリアを使用すること。 指定された個人保護具を使用すること。 皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。

医師に対する特別な注意事項
吸引する危険があるので、他の毒性物質の存在によりリスクが正当化されない嘔吐をさせたり胃洗浄を行ったりしてはならない。

5:火災時の措置

適切な消火剤	現地の状況及び周囲環境に適した消火方法を用いること。
使ってはならない消火剤	高圧水で漏出物を散乱させないこと。
特有の危険有害性	利用可能な情報はない。
特有の消火方法 **大規模火災**	水噴霧で容器を冷却すること。 警告:消火の効果が得られない場合には水噴霧を使用すること。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火を行う者は自給式呼吸器及び消火活動用の完全装備を着用しなければならない。 個人用保護具を使用すること。

6:漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	十分換気されているか確認すること。 指定された個人保護具を使用すること。 皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。
緊急対応を行う者のための保護具	8項で推奨されている個人用保護具を着用すること。
環境に対する注意事項	安全に対処できるならば、それ以上の漏えい(洩)又は漏出を防ぐこと。
封じ込め方法	安全に対処できるならば、それ以上の漏えい(洩)又は漏出を防ぐこと。
浄化方法	回収して適切に表示された容器に移すこと。
二次災害の防止策	汚染された物体及び区域を環境規則に従って十分に浄化すること。
その他の情報	7項及び8項に記載されている保護措置を参照すること。

7:取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項	皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。『8. ばく露防止措置及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
衛生対策	適切な手袋および眼/顔面保護具を着用する。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。

保管

安全な保管条件	容器を密閉して乾燥した涼しく換気のよい場所に保管すること。 施錠して保管すること。 子供の手の届かない場所に保管すること。 他の物質から離して保管すること。

8:ばく露防止及び保護措置

設備対策	シャワー 洗眼場 換気システム。

許容濃度	該当しない。
生物学的職業性ばく露限界値	該当しない
環境ばく露防止	屋内作業場で使用の場合は、発生源の密閉化または局所排気装置の設置等の対策をする。 取扱場所の近くに、安全シャワー，手洗い，洗顔装置を設け、その位置を明瞭に表示することが望ましい。

保護具

呼吸用保護具	【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。作業者がガスや蒸気に暴露される場合は呼吸用保護具(防毒マスク等)の着用を検討する。高濃度の化学物質を取り扱う場合は、送気マスクの装着を検討する。防毒マスクの選択については、以下の点に留意する。 -酸素濃度が18%未満の場所では使用しない。 -作業者が粉塵に暴露される環境で防毒マスクを使用する場合には、防じん機能付き吸収缶を使用する。 -防毒マスクは、日本産業規格(JIS T8152)に適合した、作業に適した性能及び構造のものを選ぶ。その際、取扱説明書等に記載されているデータを参考にする。
手の保護具	適切な手袋を着用する。不浸透性の保護手袋の着用を検討する。 保護手袋の選択については、以下の点に留意する。 -取扱説明書に記載されている耐透過性クラス等を参考として、作業に対して余裕のある使用時間を設定し、その時間の範囲内で保護手袋を使用する。
眼、顔面の保護具	薬液飛沫が生じる可能性がある場合には、サイドシールド付きの安全眼鏡を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用する。 長袖の衣類。

9:物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質に関する情報

形状	液体
色	茶褐色透明
臭い	特異臭

特性	**値**	**備考　・方法**
融点 ・凝固点	データなし	
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし	
引火性	データなし	
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし	
**　可燃性又は爆発性の上限**		
**　燃焼又は爆発の下限**		
引火点	140 ° C	
自然発火点	データなし	
分解温度	データなし	
pH	データなし	
動粘性率	データなし	
粘度	データなし	
水への溶解度	水に難溶	
溶解度	データなし	

n－オクタノール／水分配係数（log値）	データなし
蒸気圧	データなし
相対ガス密度	データなし
相対密度	0.93
粒子特性	
粒径	データなし
粒径分布	データなし

10:安定性及び反応性

安定性　通常の条件下で安定。

危険有害反応可能性　強酸化剤と反応し、火災の危険をもたらす。

避けるべき条件　ハロゲン，強酸，塩基，酸化剤。

混触危険物質　利用可能な情報はない。

危険有害な分解生成物　燃焼すると条件によって有害ガスが生成することがある。

11:有害性情報

急性毒性
分類できない。

毒性の数値尺度　－ 製品情報
利用可能な情報はない

以下の値はGHS文書の第3.1章に基づいて算出された

症状　呼吸困難。 咳および/または喘鳴。 めまい。 発赤。 眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある。

製品情報

経口　この化学物質または混合物の特定試験データはない。 飲み込んだ場合に誤嚥の可能性。 飲み込むと肺損傷を引き起こすおそれがある。 吸入すると肺水腫及び肺臓炎を引き起こすおそれがある。 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。 飲み込むと胃腸刺激、吐き気、嘔吐、及び下痢を引き起こすおそれがある。

吸入　この化学物質または混合物の特定試験データはない。 肺に吸引されると重篤な肺障害を引き起こす可能性がある。 肺水腫を引き起こすおそれがある。 肺水腫は生命に危険である可能性がある。 気道刺激を引き起こすおそれ。

皮膚接触　繰り返しのばく露が皮膚の乾燥又はひび割れを起こすおそれがある。 この化学物質または混合物の特定試験データはない。 皮膚刺激。（成分に基づく）。

眼接触　この化学物質または混合物の特定試験データはない。 眼を刺激する。（成分に基づく）。 強い眼刺激。

皮膚腐食性／刺激性　成分に対して利用可能なデータに基づく分類。 皮膚を刺激する。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性　成分に対して利用可能なデータに基づく分類。 強い眼刺激。

呼吸器感作性又は皮膚感作性　分類できない。

生殖細胞変異原性　利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。

発がん性　利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。

生殖毒性　利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)　利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)　利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。

誤えん有害性　飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

12:環境影響情報

生態毒性　水生生物に有害。

未知の危険有害性物質の濃度　混合物の 0 %は水生環境に対する危険有害性が未知の成分で構成されている。

残留性・分解性　利用可能な情報はない。

生体蓄積性　利用可能な情報はない。

土壌中の移動性　利用可能な情報はない。

オゾン層への有害性　分類できない。 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

他の有害影響　利用可能な情報はない。

13:廃棄上の注意

残余廃棄物　国、都道府県、および市町村の規制に従って廃棄すること。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに依託して処

理する。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することはしてはならない。

汚染容器及び包装　使用済みの容器・ウエス等も、残余廃棄物と同様に処理する。

14:輸送上の注意

IMDG　該当しない

ADR　該当しない

IATA　該当しない

国内規制　該当しない

15:適用法令

国内規制

化学物質排出把握管理促進法(PRTR)
該当しない
労働安全衛生法
該当しない
表示対象物質
安衛法表示対象物質:労働安全衛生法施行令別表第9(労働安全衛生法第57条および労働安全衛生法規則第33条関係)
通知対象物質
安衛法通知対象物質:労働安全衛生法施行令別表第9(労働安全衛生法第57条の2および労働安全衛生規則第34条の2の4関係)

毒物及び劇物取締法
該当しない
火薬類取締法
該当しない
高圧ガス保安法
該当しない
消防法:
引火性液体、第4類、第3石油類、非水溶性液体、危険等級 III、2000リットル
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)
該当しない

船舶安全法
詳細については項目14を参照
航空法
詳細については項目14を参照

16:その他の情報

改訂日　2024-2-01

安全データシートで使用されている略語及び頭文字のキーまたは凡例
凡例　8. ばく露防止及び保護措置

TWA	TWA(時間加重平均)	天井値	最大限界値
*	皮膚兆候	+	感作性物質

主要参照文献とデータの出典
JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法。 JIS Z 7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル，作業場

内の表示及び安全データシート（SDS）。

免責事項

このSDSは、JIS Z 7252:2019およびJIS Z 7253:2019の要件に準拠している。 この安全データシートに記載されている内容は、発行日時点の知見、情報に基づき正確を期したものです。ここに記載されている情報は当該製品の安全な取扱い、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、漏えい時の処理など指針とすることのみを目的としたものであり、いかなる保証をするものではなく、また品質仕様ではありません。本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの材料と組み合わせて使用した場合、または何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。

[会社情報]

販売者：熊本中央スズキ自動車販売(株)
所在地：熊本県熊本市北区飛田4-6-51
TEL:096-345-4102